



2017 ~ 2019

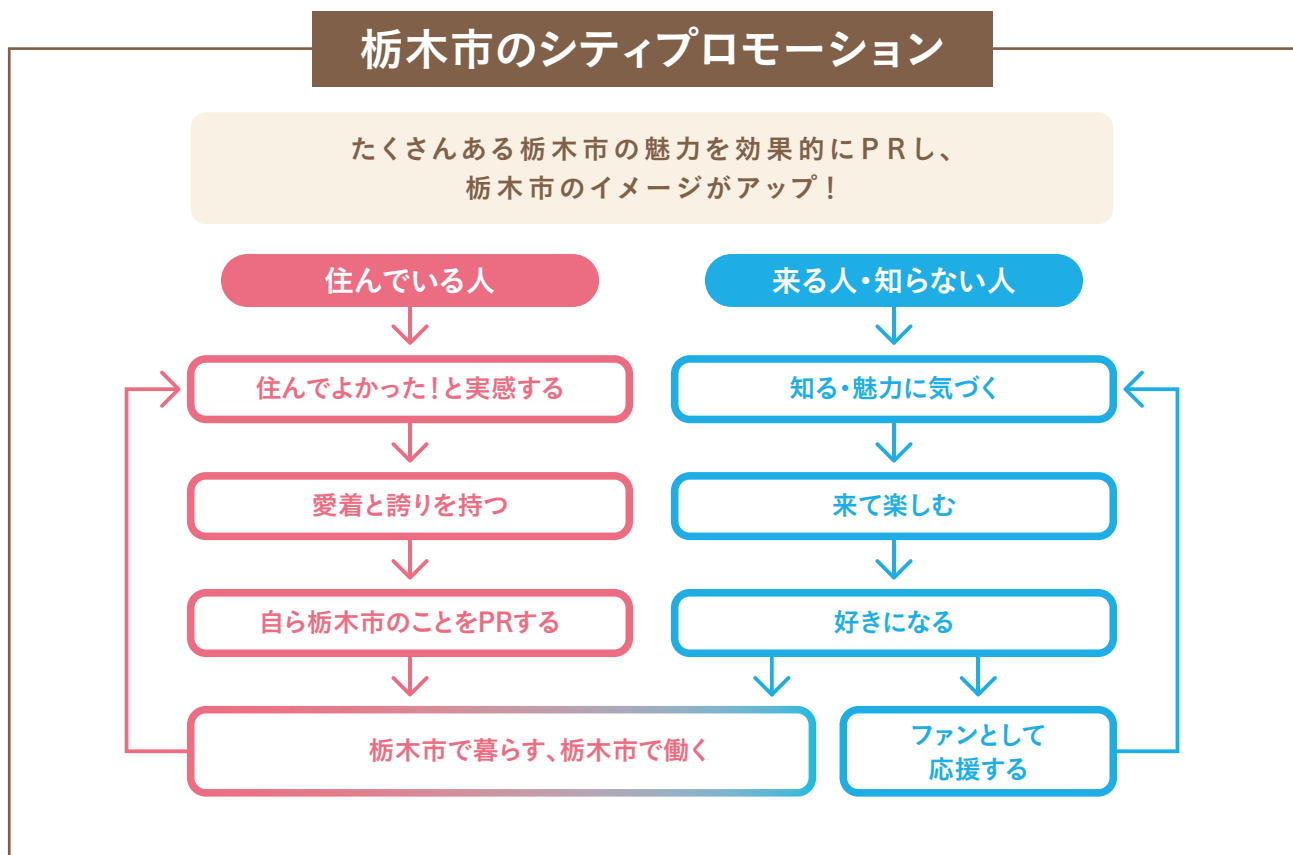


栃木市



栃木市の シティプロモーション

シティプロモーションとは、
栃木市の魅力を伝えていくことでイメージが良くなり、
みんなに栃木市のことを好きになってもらい、
住んでいる人、来てくれる人が、増えていくように取り組む戦略のことです。



contents

栃木市のシティプロモーション	02
これからはじまる、こんなこと	06
きづき ～もっと知りたい～	06
あそび ～気ままに自分らしく～	11
くらし ～ほっとするまち～	14
おもてなし ～みんなで力をあわせて～	18

想いをカタチに

わたしたち栃木市の魅力を、住んでいる人、遊びに来たことがある人、まだ知らない人、多くの人に届けたい。

そんな想いを伝えるために、

「Tochigi City Promotion Design」と、「Tochigi City Promotion Creation」の、2つの冊子を創りました。

(デザイン)

(クリエイション)



“Design”では、10年間の
少し長い目で見て、どんな
栃木市にしていきたいの
か、方向を描いています。



“Creation”では、もっと短
く、3～4年間で区切っ
て、具体的に取り組むこと
を描いています。

Design

(デザイン)

方向性

2017～2026

Creation

(クリエイション)

具体性

1st

2017～2019

(3年間)

2nd

2020～2023

(4年間)

3rd

2024～2026

(3年間)

キャッチコピー

栃木市のシティプロモーションは、

“ある”が嬉しい ゆるやか栃木市

みんなの合言葉として、進めていきます。

栃木市に“ある”自然、歴史、文化、安心できる生活などのいろいろな魅力。

そして、栃木市をつつみ込むほっこりとした“ゆるやか”な雰囲気。

これからたくさん“ある”を創り、磨いて、街の魅力が増すように、

優しく温かい“ゆるやか”な雰囲気のイメージがみんなに浸透するように、

そんな思いを込めて、キャッチコピーを創りました。



4つの分野で進めます

この冊子は、Tochigi City Promotion (クリエイション ファースト) “Creation 1st”。

2017～2019年の1stのテーマは「**浸透**」です。

「栃木市の魅力」を、住んでいるみなさんに知ってもらいたい、
栃木市のことをまだ知らないみなさんに知ってもらいたい、そんな想いを込めています。
具体的には、下の4つの分野に分けて進めます。

きづき

栃木市のいろいろ“ある”魅力を効果的に伝えます。

栃木市のPRは、とち介が先頭になって、みんなで行います

今、栃木市で暮らす人へ

栃木市のことを知らない人へ

あそび

いろいろ“ある”観光資源や体験活動に磨きをかけます。

ゆったり、散策・ハイキング

もぐもぐ、おいしい

どきどき、体験

くらし

暮らしを応援する取り組みに力を入れます。

安心生活

子育て

移り住む

働く

おもてなし

栃木市のことをPRする機会を創ります。

栃木市のことを学ぶ

いきいき市民が活動

わくわく、体験

目指すこと

4つの分野でいろいろな取り組みを進めて、次の目標を達成します。

栃木市の知名度 <関東>

〔現状〕 〔目標
(2019年)〕

45% ➡ 60%

栃木市の知名度 <関東外>

〔現状〕 〔目標
(2019年)〕

28% ➡ 40%

栃木市が好きな市民

〔現状〕 〔目標
(2019年)〕

64% ➡ 70%

“Creation 1st” の重点項目

1stの重点＝「きづき」

なぜなら…

たくさんあるある、栃木市の魅力

ラムサール条約の渡良瀬遊水地や、重要伝統的建造物群保存地区の蔵の街並みなど見どころがたくさんある

新幹線やアウトレットなど、たまに使うところが近くにある

若者世代が住みたい田舎部門 第1位
子育て世代が住みたい田舎部門 第1位
シニア世代が住みたい田舎部門 第4位

7割の人は今後も栃木市に住み続けたいと思ってる

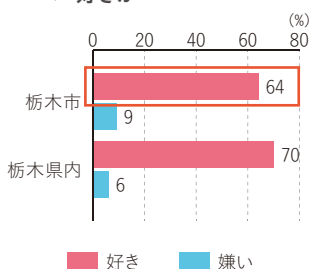
鉄道（JR東日本と東武鉄道）駅数が県内2位、東北自動車道、北関東自動車道が結節するなど交通の便が良い

農業従事者数は県内1位、県指定伝統工芸品は県内2位、工業出荷額は県内2位、意外と産業も盛ん

でも…

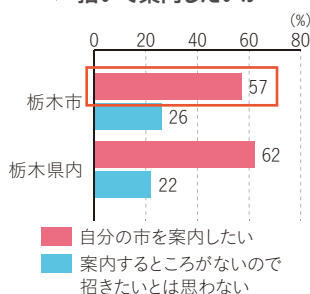
栃木市の良さに、みんなが気づいてない？

Q 自分が住むまちのことが好きか



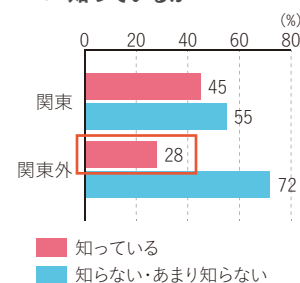
栃木市に住んでいる人に
栃木市をもっと好きになって
もらわないと。

Q 自分の市に友人や家族を招いて案内したいか



案内するところがないと
思っている人も多いみたい。
たくさんあるのに…

Q 栃木市のことを知っているか



栃木市のことを
もっとたくさんの人に
知ってもらうチャンス！

まずは
栃木市の魅力に
気づいてもらうことが
重要なんだね



これから始まる、こんなこと

き づ き

～もっと知りたい～

栃木市のPRは、とち介が先頭になって、
みんなで行います



ぼく、とち介です!!

栃木市で生まれた蔵の妖精だよ!!

「ホッとあったか係長」として、全国のおともだちに
栃木市を知ってもらえるようにがんばるよ(●`・人・●)∩
そしてそして、みんなに大きな福を

おとどけできたらいいなあ～!! \\ \\ 9(●>人<●)ゞ ///





▶ とち介と一緒に

栃木市に住むみんなの一体感の醸成や市の知名度アップ・イメージアップのために、イベントを企画して実現し、市内はもちろん他自治体で行われるイベントにも、とち介が積極的に駆けつけます。

また、栃木市の「ゆるやか」のイメージが定着するように、市全体の情報発信について統一感をもって行います。

栃木市をPRするため、とち介の全国的認知度を上げるための活動を展開します。

▶ とち介からのメッセージ

栃木市の情報を身近に受け取ってもらえるように、SNS等でとち介からのメッセージを伝えます。

- Facebook →@Tochisuke

(<https://www.facebook.com/Tochisuke/>)

- Twitter →@Tochi_suke

(https://twitter.com/tochi_suke)

- Instagram →tochisuke.t

(<https://www.instagram.com/tochisuke.t/>)



今、栃木市で暮らす人へ

▶ 栃木市からの情報発信

広報とちぎ(声の広報とちぎ、広報とちぎ点字版)、市公式ホームページ、SNS(Facebook・Twitter)などを活用し、わかりやすい情報発信を行います。

いちごや江戸料理、蔵の街や渡良瀬遊水地など、栃木市が誇れるものを全国に向けて積極的に情報発信します。

▶ 地域放送局と連携した情報発信

栃木県内初のコミュニティFM“FMくらら857”やケーブルテレビ(株)と一緒に、栃木市の魅力を伝えていきます。



FMくらら857

FMくらら857は、栃木市エリアの情報を発信するコミュニティFM放送局です。公設民営方式の放送局で、市が放送施設を設置し、ケーブルテレビ(株)が運営しています。

コミュニティFM放送局とは、市町村単位をカバーエリアとする、国が認可する放送局の中で、一番小さい放送局です。つまり、FMくらら857は、栃木市エリアだけをカバーする栃木市民のための放送局です。ラジオをFMの85.7MHzに合わせると聞くことができます。



FMくらら857
公式キャラクター
くららん

▶ ふるさと大使からの情報発信

栃木市の魅力を全国に発信してもらうために、ふるさと大使の数を増やし、栃木市との関係性を強化し情報発信力を高めます。

▶ 市民組織の立ち上げ ◀ 重点

これから始まる栃木市のシティプロモーションを市全体で盛り上げていくために、栃木市に住むみんなで市民組織を立ち上げます。

(仮称)ゆる栃サポーター

栃木市の魅力を発見し、栃木市のシティプロモーションをどのように進めていくのかを考えていくため、市民によるワークショップを開催し、「(仮称)ゆる栃サポーター」を立ち上げていきます。

栃木市のことを知らない人へ

▶ 栃木市からの情報発信

栃木市を知ってもらうため、わかりやすいパンフレットの作成や各種イベント・キャンペーンへの参加など、栃木市の魅力を伝えていきます。

▶ マスメディアを通じた情報発信

定例記者会見やプレスリリースで定期的に報道機関に最新情報を発信するとともに、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌など、各種メディア媒体に馴染む情報を効果的に発信します。

▶ PR冊子や動画の作成 **重点**

栃木市の魅力を発信できるPR冊子の作成や、PR動画作品の制作・作品を活用したPRを行います。

プロモーション動画

栃木市の魅力を発信できる動画の制作を行います。

プロモーション・ブランド冊子

市内外の人に向けて、栃木市の魅力を感じてもらうための冊子を作成します。

いつもの栃木市紹介動画

栃木市民のゆるやかな日常を動画で発信します。

▶ 市外からの応援

東京スカイツリーにある栃木県のアンテナショップ「とちまるショップ」や、ふるさと納税の「栃木市ふるさと応援寄附」などを通じて、市外の栃木市ファンを増やし、応援してもらう仕組みを充実させます。



より効果的にメディアを活用するために…

● メディアの種類

	オウンド メディア 自ら所有しているもの	ペイド メディア 一般的には料金を支払って 活用するもの	アールド メディア 口コミ的に他者からの発信を 活用するもの
メディア例	広報とちぎ 市公式ホームページ 各種パンフレット とち介を先頭に、より効果的に、どんどん魅力を伝えていきます。	新聞・雑誌・チラシ テレビ・ラジオ 記者会見やプレスリリースなどにより、マスメディアに旬な情報を提供します。	SNS 口コミ 伝わった魅力を、今度はみんなから伝えてもらえるようにします。
メリット	的確な情報を伝えられる	集客性・話題性がある	低コストで継続性がある
デメリット	一方通行で 集客性に欠ける	コストがかかり、 一過性になりがち	意図しない情報が 伝わる可能性がある

あ そ び

～ 気ままに自分らしく～

ゆったり、散策・ハイキング

▶ 蔵の街の散策

歴史的な町並みを保存しながら、観光・交流の拠点として活用します。

また、山車や市ゆかりの芸術家等の貴重な収蔵品を山車会館やとちぎ蔵の街美術館、歌麿館などで展示するとともに、多くの人に興味を持ってもらえるような企画展や講座を開催します。



▶ 歴史や伝統

郷土参考館や横山郷土館、藤岡歴史民俗資料館、おおひら歴史民俗資料館など各地域の歴史を伝える施設や、星野遺跡や下野国庁跡、皆川城址などの史跡を保存しながら、それぞれを線で結び、来訪者の回遊性を高めます。



▶ ハイキング

季節ごとの“旬”な情報を積極的に発信するとともに、自然歩道やハイキング道、案内板、トイレなど、利用しやすい施設の維持管理に努めます。

▶ 渡良瀬遊水地「ハートランド」 ◀ 重点

広大な渡良瀬遊水地をぐるりと車で1周する渡良瀬遊水地ぐるり旅や四季折々の幻想的な風景が多く見られる渡良瀬遊水地のフォトコンテストの開催など、渡良瀬遊水地の魅力を伝える取り組みを行います。また、渡良瀬遊水地のビジターセンターとなる施設整備を始めます。

渡良瀬遊水地シンボル施設の整備

渡良瀬遊水地「ハートランド」のシンボルとして、総合的ビジターセンターの機能を持つ施設整備を進めます。

どきどき、体験



▶ 水

渡良瀬遊水地でのカヌー、ボート、ヨットなどのウォータースポーツのレジャースポーツリーダー養成を行い、より多くの人が体験できるようにしていくとともに、体験できる環境整備を行います。

▶ 陸

市内のサイクリングコースのPRや、タイムトライアルレース等のサイクルイベントなど自転車を活用した観光や、ウォーキング、マラソン、トライアスロンなど様々なスポーツの体験ができることをPRしていきます。

▶ 空

渡良瀬遊水地で熱気球やスカイダイビング、グライダーなどのスカイスポーツが楽しめることをPRしていきます。

▶ フルーツ

いちご、ぶどう、なし、ブルーベリーなどのフルーツ狩り体験を充実させ、PRしていきます。

デスティネーションキャンペーン (略称DC)

JRグループ6社と地域(地方公共団体・市民・企業など)が協働で取り組む国内最大規模の観光キャンペーン。栃木県開催は2度目で、2018年4～6月に行われます。

もぐもぐ、おいしい

▶ とちぎ小江戸ブランド

ブランド元の事業者と連携・協力し、コエド市場などを通して、とちぎ小江戸ブランド認定品をPRし、ブランドの認知度を高めるとともに販路拡大にも取り組みます。



とちぎ小江戸ブランド



とちぎ小江戸ブランドは、素材や製造技術に加え、自然環境、歴史や文化に根ざしたストーリー性などの栃木市らしさと供給力や価格といった経済性、品質の安全・信頼性・環境への配慮、独自・優位性、広報計画の5項目について審査を行い、農産物、菓子、加工食品、工芸品の4つの分野で認定を行っています。

▶ とちぎ江戸料理

小江戸風情残る蔵の街「小江戸とちぎ」で和食の原点である江戸料理の研究を進め、訪れた人が満足する「とちぎ江戸料理」を提供します。

▶ 道の駅など

市域の北と南に位置する「道の駅みかも」と「道の駅にしかた」、「いわふねフルーツパーク」では“ジェラート”、市内に6つある「農村レストラン」などでは“そば”などを提供するとともに、新メニューの開発を進め、地物ならではの“食”に一層の磨きをかけて売り出していきます。





～ほっとするまち～

安心生活

▶ 福祉サービス

高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉の各種サービス、生活に困っている方へのサービスを充実させるとともに、包括的な相談支援体制を構築します。また、公的サービスだけでは解決できない問題については、地域の様々な人と協力して解決していきます。

栃木市福祉総合 相談支援センター

福祉ニーズの多様化、複雑化に対応するため、多機関の横断的な連携体制を構築し、包括的な支援を行います。

▶ 保健・医療サービス

各種健康診査・検診で早い段階から病気の予防や発見に努め、健康な生活が送れるように応援します。また、とちぎメディカルセンターをはじめとした地域の中心となる病院と急患センターが連携を図りながら、休日・夜間診療体制を維持します。

ふれあいバス

市が運行する路線バスで、通学や通勤、買い物など日常の足として10路線を運航しています。

▶ 交通

ふれあいバスや蔵タク等の移動手段について、多くの人が利用しやすくなるよう見直しをしながら運行していきます。

蔵タク

自宅から目的地まで移動できる予約制・乗り合いの公共交通です。決まった路線は無く、市内全域を運行しており、近くに鉄道駅やバス停が無い方でも安心してご利用できます。

▶ 防災 **重点**

災害がおきた時に備え、非常食・水等の備蓄や防災訓練の実施、災害情報等の発信体制を整備します。また、自主防災組織や消防団など地域の活動を応援します。

緊急防災情報伝達システムの整備

防災無線やコミュニティFM放送を活用して、防災や避難に関する緊急情報などを迅速に伝達し、市民が安全に避難できる体制などを整備します。

防災ハザードマップ作成

土砂災害警戒区域も含めた「防災ハザードマップ」を作成し、配布します。

子育て

▶ 保育サービス

保護者が働いているなどの理由で子どもを保育できない場合、保育園、認定こども園などで保護者に代わって保育します。また、急な用事などの際の一時預かりや病気の子どもの預かる病児保育など、保護者のニーズに合わせた多様な保育サービスを行います。



▶ 子育て支援 ◀ 重点

子どもの心や育ちについて、気軽に医師や臨床心理士などの専門家に相談できる場所としての「子どもサポートセンター」を始め、妊娠・出産・子育てにおけるライフステージに応じて、サポートチーム(専門スタッフ)やコーディネーターが、18歳まで切れ目なく包括的な支援を行うため、「子育て世代包括支援センター」を設置します。また、家庭相談員や養育支援員、母子・父子自立支援員を配置し、子どもや家庭の状況に応じた支援を行います。

子育て支援施設スタンプラリー

市内の子育て支援施設をスタンプラリーで回することで、気軽に施設を利用し、安心して相談できる窓口を増やします。

▶ 学び・教育

学校支援員の配置、とちぎ未来アシストネットの活用により、子どもたち一人ひとりに寄り添ったきめ細かな指導・支援を行うとともに、「中1ギャップ」の解消や、小学校から中学校へ進学する子どもたちの状況を共有して学習の弱み部分の克服を図るため、小中一貫性のある教育を市内全中学校区で実施します。

また、給付型を含めた奨学金制度を充実させ、学びを応援します。



とちぎ未来アシストネット

学校・地域コーディネーターをつなぎ役として配置し、学校・家庭・地域の連携・協力を組織的に発展させ、より効果的に「学校支援」や「地域のきずなづくり」などを図るものです。公民館に地域アシストネット本部を置き、「地域から学校へ」「学校から地域へ」の双方向の相互補完的連携協力により、学校と地域のきずなを深め、活性化につなげています。

働く

▶ 創業の応援

優秀な創業計画を表彰する「ビジネスプランコンテスト」、店舗運営の体験ができる「チャレンジショップ」、創業意欲のある若者などの拠点施設「パーラートチギ」との連携、空き店舗活用支援、制度融資などを実施し、創業意欲のある方や新しいアイデアをお持ちの方を応援します。

▶ 中小企業の応援

制度融資や産業財産権取得費補助などによる経営支援、商工会議所や商工会など、関係団体の運営支援を行います。また、中小企業の振興を推進する条例を制定して市の責務や企業、団体、市民の役割を明確にするとともに、勤労者の福利厚生のための事業を実施するなど、地域経済や雇用を支える中小企業・小規模企業を応援します。

▶ 企業誘致

宇都宮西中核工業団地や千塚町上川原産業団地などに、多くの市民の雇用を生み出す優良な企業を誘致するために、立地環境のPRや企業への手厚い優遇制度を活用して、積極的な企業誘致を行います。また、栃木市内にある3か所のインターチェンジ周辺について、高速道の結節点を活かした産業団地の整備を計画的に進めます。

▶ 就農の応援 **重点**

市の農業プロモーション動画を作成します。また、遊休資源を有効活用し新規就農を目指す若者や、ICTなどの先端技術を活用した超省力・高品質生産を実現する「スマート農業」を目指す農業経営者を応援します。

農業後継者婚活サポート

農業後継者へ出会いの機会を提供し、今後の農業経営基盤の安定化・定住を進めていきます。



移り住む

▶ 移住・定住支援

婚活イベントの開催や、地域おこし協力隊との協力、移住定住促進ツアーの実施、「蔵の街やどかりの家」での宿泊体験などで、栃木市への移住を考えている人を応援します。さらに、家を新築・購入した場合、まちなか定住促進住宅新築等補助金などの補助制度により定住を支援します。

▶ 空き家の活用

利活用可能な空き家について、栃木市空き家バンク制度「あったか住まいるバンク」への登録を促し、全国の空き家を探している人に専用ホームページで情報を発信します。また、「あったか住まいるバンク」を活用した場合、リフォーム補助金を給付することで、綺麗で気持ち良い住まいづくりを応援します。



お も て な し

～みんなで力をあわせて～

栃木市のことを学ぶ

▶ 栃木市民大学 ◀ 重点

栃木市の歴史や文化を主に、まちづくりに関する基本的なことを学ぶ「栃木市民大学」を開始し、学びを通じた受講生同士の交流や仲間づくり、学習成果の活用による地域づくりを進めます。

栃木市民大学5周年記念特別講演

市民大学受講生以外の方にも受講できる、著名人等を講師とした特別講演を開催します。



栃木市民大学 ボランティアスタッフ

市民大学修了生により「栃木市民大学ボランティアスタッフ」が組織され、知識や経験、人脈などを活かしながら講座の企画、運営業務に携わっています。

▶ 地域で学ぶ

地域で活動する団体を応援します。また、環境学習リーダーや文化マイスター、ボランティアガイド、地域おこし協力隊など地域で学び、伝える人を増やします。

いきいき市民が活動

▶ 市民活動の応援

市民活動補償保険への加入や、市民活動推進事業費補助金(とちぎ夢ファーレ)などにより、様々な市民活動を応援します。

▶ コミュニティ・地域での活動

各地域の地域会議では身近な地域のまちづくりについて協議します。また、地域で学んだ人がコミュニティ推進協議会やまちづくり実働組織に加入して活動するなど、地域の独自性を生かした活動を応援し、学びと実践の連携を深めます。

▶ おもてなしの向上

観光客に心地よく過ごしてもらい、栃木市の良さを知って好きになってもらうため、市全体でおもてなしの向上が図れるよう、講習会を開催し、ホームページなどでおもてなしの情報を発信します。



わくわく、体験



▶ 各種イベントの実施

とちぎ秋まつり、歌麿まつり、渡良瀬遊水地フェスティバルなど、各地域のイベント開催を応援します。また、現在開催されているイベントをより楽しめるものに向上させるとともに、体験できるイベントを増やします。

▶ 伝統

着物の着付け、和菓子作りなど日本の伝統文化を感じながら、楽しめる体験ができることをPRしていきます。

Tochigi City Promotion

“Creation”
1st



“Design”
も見てね

発行年月：平成29年3月

発行：栃木市 総合政策部 シティプロモーション課

〒328-8686 栃木市万町9-25

TEL 0282-21-2315

制作：(株)ジャパンインターナショナル総合研究所